

# 京まち工房



SPRING  
情報交流誌

no.

# 46

(財)京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター

パートナーシップで進めるまちづくり

特集

## あなたのまちのいいところ

修徳のまちなみに貢献する建物を選定中! / 上鳥羽—小さなおせっかい宣言 / 桂坂あかしあ自治会の建築協定更新



あなたのまちづくり拝見  
ラウンドアイズ京都

京町家まちづくりファンドの取組

京町家保全・再生の事例  
家族5人の夢がつまった家

真面目な中にも楽しさの潜む  
京町家まちづくり調査



# あなたのまちのいいところ

- ◆ あなたのまちのいいところを再発見！みんなで「まちのいいところ」を話し合い、今まで知らなかった「まちのいいところ」を再発見することによって、ずっと守っていきこう、そしてもっとよくしていこう、という気持ちが生まれてくるのではないのでしょうか。
- ◆ 実はそのような取組が、市内のいろんな地域で行われています。ごく一部ですが、紹介します。

## 修徳のまちなみに貢献する建物を選定中！ ～修徳まちづくり委員会の取組～

「今地域にある良い建物を残したい」、「これから新しく建つ建物にもまちなみに合うように配慮してほしい」…そんな思いから、地域でまちなみに貢献している建物を選定する取組を進められている修徳まちづくり委員会の活動を紹介します。

### ◆歴史資産と自治の伝統を誇るまち修徳

概ね東は東洞院通、西は西洞院通、北は松原通、南は五条通に囲まれた修徳学区は、平安末期以来、政治の中心地でした。また、平安後期の歌人・藤原俊成の邸宅跡に建つ、歌の神を祭る「新玉津島神社」や、鎌倉初期の関白九条兼実の花園別邸跡（親鸞聖人の入滅地）に残る「光圓寺」、「大泉寺」など、時の権力者や文化人に由来する多くの歴史資産を今に残しています。また、織田信長によって町と町組の自治を承認されて以来受け継がれている自治の伝統が、明治期の修徳小学校の経営にも発展するなど、学区民の強い絆に結びついています。しかし、伝統的なまちなみに配慮のないビル・マンションが増加したときには、まちなみに混乱が生じ始め、住民同士の絆が薄れるなど、地域の皆さんは危機感を持っておられました。

### ◆まちづくり憲章第1部を策定

修徳学区は、平成11年にまちづくり委員会を自治連合会内に設置し、学区の歴史や数多く残る歴史資産にふさわしいまちなみを保とうという思いから、「修徳まちづくり憲章第1部」を平成18年に作成されました。憲章には、修徳学区の歴史やまちづくりのテーマがまとめられているほか、修

徳が望む建築物の建て方のお願について、事例を交えながら紹介されています。憲章策定後は、学区内に新築する事業者が、憲章を読んだ上で建て方に配慮するといった成果を上げています。

### ◆今まちなみに貢献している建物からこれからのまちなみを考える ～憲章第2部に向けて～

今年度、まちづくり委員会内に設けた「すまい・まちなみ部会」において、「修徳の歴史資産と調和し、まちなみに貢献している建物」を選びながら、修徳で建物を建てる際の理念やルールをまとめられています。この成果は、来年度、まちづくり憲章第2部の中に反映される予定です。



すまい・まちなみ部会で選定

昨年京都市で実施された新景観政策を補完する、地域からのボトムアップ型景観まちづくりのモデルとなることも視野に入れながら、京都大学門内研究室や京都府建築士会、京都市、センターのサポートのもと、取組が進められています。地域の皆さんによって選ばれた「まちの宝」が、今後も地域にあり続けると同時に、周囲のまちなみに対して、よい影響を波のように広がっていくことを願っています。

## 桂坂あかしあ自治会の建築協定更新

西京区桂坂の北西部に位置するあかしあ自治会（138世帯）では、敷地面積や屋根・外壁の形式・材料・色等を定めた建築協定を、99%の方が同意し更新されました。

そこで、建築協定運営委員の皆さんに、地域環境を守るための工夫と秘訣についてお聞きしました。

### ◆高い同意の背景には顔の見える人間関係

街開きから20年、その頃からお住まいなのが100世帯以上。その間に焼肉パーティー、もちつき、リング狩り等の行事で顔なじみになり、ご近所の結びつきの強さが高い同意につながっているようです。転出された方



建築協定運営委員の皆さん

の連絡先をご存じの方が自治会内におられ、アンケートを送ると「良い地域であり続けて欲しい気持ちは皆さんと一緒にです」との返事が。もちろん、新しく転入されてきた方にも親しみやすい環境で、現会長は周りの方のサポートのもと、転入後2年で役を引き受けられたとのこと。

### ◆住めば気に入る地域環境

この地区にお住まいを決めた理由をお聞きすると、「子どもを育てるのに良い環境だから。通過交通がないうえ、ご近所の目もあり、『広い路地のような感じ』なので、子どもも安心して遊べる」からだそうです。また、鹿や狐の他、蜜柑を庭先に出すとメジロがやってくるなど自然に恵まれたところも気に入っているそうです。

みんなが建替えや壁の塗替え時に、周りに配慮することで、調和したまちなみになっているとの自負もあり、「外

## 上鳥羽—小さなおせっかい宣言～あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会の取組～

南区の上鳥羽学区では、平成21年2月21日に「上鳥羽—小さなおせっかい宣言」の宣言式が行われました。上鳥羽学区のこれまでのまちづくりの取組と併せて、その宣言式の様子を紹介します。

### ◆まちづくりのきっかけ

上鳥羽のまちづくりは、子どもを取り巻く痛ましい事件の多発をきっかけに、平成16年に上鳥羽小学校やPTA、自治連合会、各団体が協力して行った、子ども達の防犯対策や安全教育の取組から始まりました。この動きは、あんしん・あんぜん上鳥羽推進委員会の結成につながり、立命館大学石本ゼミとも連携して、住民同士の活動の連携に広がり継続されています。子どもの見守り活動のPRパレードや、水やりをしながら登下校中の子どもへの声かけができるように、各戸の玄関や学校に手作り竹プランターを設置するなどユニークな取組も行われています。これらの取組の中で、ご近所づきあいを見直し、ご近所同士でお声かけをする「小さなおせっかい」を復活することが、まちの安心・安全の地域力を再生することにつながるのではないかと議論され、今回の宣言が作られることになりました。

### ◆小さなおせっかい宣言

宣言式では、これまでの活動報告に続き、上鳥羽小学校の子ども達による宣言と作文の発表が行われました。宣

＜上鳥羽—小さなおせっかい宣言＞

- ① 笑顔であいさつしましょう
- ② 思いやりの心を持ちましょう
- ③ 声かけをしましょう
- ④ できることから始めましょう
- ⑤ みんなで取り組みましょう

言は5つの項目からできており、「人と出会ったら笑顔であいさつをして心地よい関係を作りましょう」、「優しい声かけや日常の中でのさりげない心配といった『小さなおせっかい』をしましょう」、などといった内容です。

その後、東京都荒川区で「おせっかいおじさん・おばさん運動」に取り組まれている、「あらかわの心」推進運動区民委員会の皆さんによる寸劇が上演されました。おせっかいおじさんやおばさんなどの芝居に会場が笑いに包まれる中で、日常生活でのおせっかいの大事さを演じられました。また、参加者によるおせっかい談義では、「上鳥羽でも寸劇をします!」というPTA関係者の宣言や、「見守り活動中に、うちの孫もお世話になります、と地域住民から言われたときに、活動の意義を感じました」という自治連合会の会長の感想なども聞かれました。



子ども達が元気に宣言



「おせっかい」を好演

から帰ってきて、我がまちなみを見るとホッとするとの声もありました。

### ◆更新の取組

まず、アンケートを実施し、自分達が地域の環境を気に入って住んでいることを再確認。そのまちなみを守るルールの継続を確認されました。



運営委員会を月1回開催するほか、アンケートで要望のあった、協定内容を紹介するルールブックや11号を数えるニュースを作成されました。勉強会に参加された方がルールブックを持ってこら

れたのを見たときは「作って良かった」と実感されたそうです。アンケートを未回収のお宅には、女性陣が率先して「私が行ってくるわ」。説明が必要なときは委員長がフォロー、と連携して取り組まれています。更には委員長の娘さんの存在です。小4ながら委員会に参加し、大人達の議論をホワイトボードにまとめることもあり、風邪で欠席の時は、委員から「今日は来てないね」との声が聞かれるそうです。

### ◆取組の振り返りと今後

「99%もの承諾をもらえたことは嬉しかった。今後は、地元だけでは対応が難しいこともあるので、地区計画を通じての対応を行政にお願いしたい。地区計画の手続きを進めたい」とおっしゃっていました。



あなたのまちづくり発見

昨年11月末まで元西陣小学校にセンターのサテライトオフィス「MISO」を開館していました。そこで、同じ元西陣小学校を拠点として、子どもたちに地域に興味をもってもらおうと活動されている「ラウンドアイズ京都」に出会いました。ラウンドアイズの方々にどのような活動をされているか紹介させていただきます。

## ラウンドアイズ京都 - Round Eyes Kyoto -

Round Eyes  
Kyoto

ラウンドアイズとは、偏見や先入観のない「丸い眼」でまちの暮らしや生活を見つめつつ、昔のもの、新しいものも大事にする「輪」を持つという思いを込めて付けられました。ロゴマークは、じょうろで水をやり、芽を育てようという想いと、「京」という漢字をイメージしています。

### ラウンドアイズ京都 ～子どものときからの地域参加って?!～

京都市上京区にある元西陣小学校を活動拠点に、子どものときからの地域参加を目指すプロジェクトを行っています。それが、大学生や社会人などの若いボランティアスタッフが中心となって活動しているラウンドアイズ京都 (REK) です。「子どもの時から住んでいる地域に興味や関心を持ち、様々な活動に参加した経験を持つことが、その人の将来の市民参加につながるのではないか？」そう考え、REKを企画しました。京都の未来を創っていくまちづくりの担い手になろう・担い手を増やそうと、学生や社会人、京都市が協力し、(財)京都市ユースサービス協会が主催となって、2004年4月から活動を開始しました。



ちたんけんや地域の方へのインタビューを通して、自分の

西陣地域で5年目の活動を迎えることになった今年度は、小学1年生から5年生までの子どもたちとともに、「かくれた西陣をさがそう!!」というテーマで活動しました。ま

住んでいる「まち」を知ることのおもしろさを感じ、それをいろいろな人に伝えていってもらおうと考えました。そこで、子どもたちが考えたテーマ、ルートでまちなんけんをし、



子どもたちが案内人として家族や友人、地域の人にまちを紹介しながら歩く「まちなんけんツアー」を実施することになりました。2つのグループに分かれてテーマを考え、まちの中にあるデザインを見つけることと、路地を中心に歩くことを決めました。まちなんけんツアー当日までに、スタッフと子どもたちでまちなんけんをし、そこで気になったことを地域のお年寄りの方に質問したり、<sup>ほこさん</sup>錡参通り工芸展の方や京都市景観・まちづくりセンターの方にお話を伺ったりしまして、各グループのテーマをより深めました。そうして、スタッフと子どもたちで準備を進め、1月17日にツアー本番を迎えました。2つのグループに分かれての約1時間のまちなんけんです。普通に歩いているとなかなか気づかないと思いますが、西陣にはしょうきさんを置いている家が非常に多くあります。町家や路地、お地藏さんが多いことも特徴です。そういったことについて、子どもたちがツアー参加者に紹介してくれました。

大人が普通に歩けば、10分で歩いてしまえるところも、子どもたちの目線で何かに注目しながら歩くと、気がつけば30分も経っています。だからこそ、新しい発見があり、ただ歩くことがすごくおもしろくなります。そして、自分の住む「まち」がより身近に、また愛着あるものになるのではないのでしょうか。REKの取り組みが、地域参加への第1歩となるよう、これからも活動を続けていきます。



(財)京都市ユースサービス協会 ラウンドアイズ京都事務局

〒604-8147 京都府京都市中京区御射山町262

京都市中京青少年活動センター内 担当：米田・川崎

TEL : 075-213-3681 FAX : 075-231-1231

E-mail k.y.serv@kyoto.email.ne.jp URL <http://www.ys-kyoto.org>



## 京町家まちづくりファンドの取組



平成19年度の改修助成モデル事業に選ばれた町家が次々と完成してきました。皆さんが、それぞれの思いを抱いて行った改修、さて、どんな素敵な町家に生まれ変わったのでしょうか。今回は3件を紹介します。また、今回のテーマ「あなたのまちのいいところ」についても一言コメントをいただきました。

### 五条坂・清水

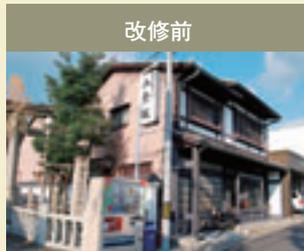
清水保孝さんは、父の卯一さんと息子の志郎さんの三代の陶芸家さんです。

「陶器のまち・五条坂にかつてのにぎわいを取り戻したい」との思いから、これまでも仕事場や店舗として使ってきた町家を、もっと京都らしく、開かれた文化交流の場になるようにと、改修されました。

一階の店舗では、保孝さんと志郎さんの作品を展示販売、二階のギャラリーでは、卯一さんの作品展示を行い、気軽に三代の作品を見ていただけるように工夫されました。

「お客様に気軽に陶器に触れていただける場となれば」と語ってくださいました。

五条坂・清水(東山区五条橋東5丁目477) 土日営業  
<http://www.shimizuke.net/>



改修前



改修後

あなたのまちの  
いいところを一言で  
「庶民のまち」

### スペースALS-D+光如庵

船岡山の南側の路地に建つ、元・織屋さんの町家を活用されている「スペースALS-D」は、舞踏家・由良部正美さんを中心とする芸術文化活動の拠点であると同時に、筋萎縮性側索硬化症(ALS)という難病と闘う甲谷匡賛さんの生活の場でもあります。

1階の表側を甲谷さんの生活の場とし、奥を吹き抜けの舞踏練習室としました。2階の部屋と奥庭は、共に練習室に面しており、練習室をステージとするイベントで観客席としても使えるよう工夫しています。

この町家では、甲谷さんが自薦ヘルパーによる24時間介護を受け独居生活を実践するとともに、様々な講師が難病患者介護の講習会を開催するなど、新しい形の「福祉と芸術の融合」を目指されています。

スペースALS-D+光如庵(北区紫野南舟岡町)  
<http://homepage3.nifty.com/spacealsd/>



改修前



改修後

あなたのまちの  
いいところを一言で  
「様々なエネルギー  
が混在したまち」

### 小泉邸

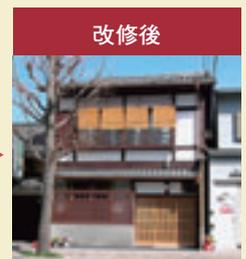
「麻」にこだわってお店を営む小泉光太郎さんは、これまでに、4軒の京町家を再生されてきました。5軒目のこの町家は、小泉さんご家族の「すまい」として使われることを目的に改修されたものです。

アイロン作業場として使われていたこの家は、かなり大幅な改造が加えられていましたが、「できる限り本来の京町家の姿に戻したい」との思いで、改修されました。その一方で、ご高齢のお母様の車いすでの生活に支障がないよう、廊下の幅などには、新しい工夫も凝らされています。

二条城にも近く、都心部に比べてまだ多くの京町家が残る、歴史や文化、伝統を感じられるこの界隈を愛する小泉さんは、「この地域の景観と伝統の継承に役立ちたい。そして、京町家と共に生きる生活文化を伝えたい」と考えておられます。



改修前



改修後

あなたのまちの  
いいところを一言で  
「町衆の文化を守り、  
伝統を伝える「まち」」



## 京町家保全・再生の事例

### 家族5人の夢がつまった家

「1邸」(中京区)

にぎやかな中京区の町並みのうつろいを、130年前から見守ってきた町家。ご近所にはレストランやお店、ガレージが多くなり、今では木造の町家は数えるほどしか見あたりません。行き交う人でにぎわうこの町中で、京都の暮らしの雰囲気を伝える貴重な存在です。

ずっと関東で暮らしてきたIさんご夫婦と3人の娘さんでしたが、6年まえにご主人が大阪へ転勤となったことを機に、京都のお爺様が所有していた町家を改修して暮らすことにされました。「私の父以前は京都出身。それなら自分のルーツは京都だと思い、京都に腰をすえたいと思っていました」とIさん。

改修前まで10年近く住人が不在の状態だったこの町家、改修して住めるようになるのかとても不安だったそうです。Iさんは、まずインターネットで情報収集をされ、町家に精通する工務店と出会い、京町家改修への第一歩を踏み出すことができたそうです。

また、同時にセンターの「京町家なんでも相談」も活用し、専門家による現地相談を受けることで、改修して住めるようになるかどうか、希望する間取りに変更することができるかどうか、の2点の不安を解消されました。

「どんな家にしようか?」。Iさんご家族の家族会議は何度も開かれ、みんなの夢が集まってきました。「会話のはずむキッチンにしたいわ」、「お庭を眺めながらお風呂に入りたい!」、「自然素材で気持ちの落ち着く部屋にしたいなあ」。どんどん出てくる家族5人分の夢をもちより、工務店と昨年1月から月1回のペースでじっくりと相談を重ねて夢をかたちにし、納得のいく改修工事につながられました。「工務店さんが私たちの分からないこともきちんと教えてくださり、丁寧に相談にのってくださったから、ここまで納得のいく改修をすることができました」、とおっしゃるとおり、間取りの計画だけでなく、窓の位置やかたち、建具の色など、きめ細かなところにもご家族の想いが反映されました。

外観はほとんど変えず、町家の伝統的なデザインが

そのまま活かされています。通り庭は火袋を活かした吹き抜けのあるキッチンとなり、奥に進むとお庭を見ながら入れる浴室やトイレにつながります。通り庭に面して空間を広く使えるのびのびとした和室1室を含む3室、2階の和室はフローリングの子ども部屋とご夫婦の寝室に生まれ変わり、1階のキッチンと吹き抜けでゆるやかにつながった空間となりました。そのほか、暮らしやすいように床暖房を入れる、屋根裏に収納スペースをつくる、屋根は部分的にガラスの瓦をつけて光をとり入れる、といった工夫もされています。

「全体を包み込む優しい雰囲気や居心地の良さは自然素材の町家ならでは」と、笑顔のIさん。この日は2階の寝室の壁を、家族5人がコテや刷毛をつけて仕上げました。職人さんに教えてもらいながら初めて触る漆喰の感触に「漆喰の感触がきもちいい。壁を塗るのって、むずかしいけれどおもしろい!」と大盛り上がり。



家族みんなで、壁を仕上げました

「以前はまるでお化け屋敷みたいだったんだよ」と笑顔で家を案内してくれたのは、3人の娘さん。「改修では悩みも多かったけれど、その分できあがりがとても楽しみ。祇園祭や京都の環境を存分に楽しみたいです」と奥様。「にぎやかになって楽しみだね」と町中での会話ははずみます。

桜の蕾のほころぶこの春から、町家での新しい生活が始まります。お爺様が大切にされてきたこの町家で、Iさんご家族の夢と京都の町がどのような景色を紡いでいくのか、とても楽しみです。(大屋みのり)



室内では最後の仕上げに大忙し



記念に押した家族5人の手形

## 真面目な中にも楽しさの潜む 「京町家まちづくり調査」

昨年からはまっている「京町家まちづくり調査」。3月中旬現在で延べ29日、約1,500人の方が調査に参加していただき、約16,000軒の調査を行いました。

一般調査員の方は、市内の方だけでなく、大阪府や兵庫県、そして東京の方もいらっしゃいます。12月にはなんと、韓国の学生の方も参加されました。

そして驚くべきことは、リピーターの多さです。現在は寒い時期でもあり、丸1日歩き回っての調査は体力的にも決して楽なものではないと思います。でも、専門家調査員の方はもちろん、一般調査員の方が何度も繰り返し参加して下さる魅力が、何かこの調査には隠されているようです。そのあたりをちょっと探ってみましょう！

まずは、調査拠点のすばらしさがあげられます。1月までに行った上京区を中心とした調査の拠点は、閉校になった元小学校や地域の自治会館。そして、2月からの伏見区調査の拠点は、御香宮神社。普段は入る事のないこのような建物を利用して町家調査をするのも、一つの醍醐味です。



調査拠点となった御香宮神社(左)と元西陣小学校(上)。調査地域によって拠点が変わります。

元西陣小学校は、ふんだんに使われた木材、石やタイルに歴史を感じ、初めて入る建物なのにとってもなつかしい気持ちにさせてくれます。また、自治会館では、地域の方々のご協力により昔の写真を展示することができ、昔と現在を比べながら調査することができました。

次に、調査の1日の流れを紹介します。

朝、9時に集合し、10分間のミニ講座から始まります。講座の講師はその日に調査する地域の方だったり、町家の専門家だったり。御香宮神社では、宮司さんにもお話いただきました。毎回違った角度から、地域のことや町家の話が聴けるのも大きな特徴です。

そして調査方法の説明の後、班ごとに出発です。その日の参加者の人数にもよりますが、3～5名で班を構成し、各班に専門家1名、立命館大学の学生スタッフ1名が入ります。年齢も性別もバラバラですが、町家というキーワードで集まった者どうしはすぐに意気投合。20代の一般調査員の方によると、普段は自分が好きな町家についての話に共感してくれる人も少ないので、調査中に班の方々と交わす会話がなにより楽しいとのこと。

また、調査そのものが、ある意味とてもディープな京都



班に分かれて調査開始。「こういう造りなら昭和初期に建てられたはず」など町家をネタに会話が弾みます。

観光にもなっているようです。もちろん調査は真面目なものの、調査員さんは真剣に取り組んでいらっしゃいます。でも、行き止まり路地の奥深くや、長屋の連なった地域などを目にする事なんて、めったにあるものではありません。運が良ければ、地元の人のお話を聞けたり、お家の中に招かれたりすることまであります。こんなところにも、調査の人気があるようです。

そして調査から帰ってくると、報告会です。各班で決めたその日の最も印象に残った町家や、いいと感じた通り景観について写真とともに発表していただきます。自分達が調査したもの以上の情報が皆さんで共有できるのも調査の魅力の一つといってもいいでしょう。



1日の調査を報告。まちを歩いて調査した生の声が聞かれます。これを楽しみにされている方も。

この報告会ができるのはなんとといっても立命館の学生スタッフのおかげです。今や大ベテランとなった立命館スタッフ。総勢50名ほどが登録をし、毎回10～15名が参加してくれています。PDAという携帯端末にデジタル入力し、調査終了後にはデータのとりまとめを行うというメインの仕事以外にも、調査の流れを調整し、まわる道順を決め、次に調査する建物を案内してくれます。何か不測の事態が発生したら、本部と連絡を取りながら対処してくれるのも立命館スタッフです。彼らがいなかったら、調査はこんなに円滑にできていないでしょう。



これが入力端末PDA。調査結果をすぐデジタル処理できるため、スピード化と転記入力ミスが防げるすぐれもの。

一般調査員の登録は既に300人を超えました。専門家調査員の登録も120人を超えています。さすが1年半、5万軒を調査するという大調査、所帯も大きなものになってきました。

調査は来年3月まで続きます。町家の応援団を増やしていくため、調査員は引き続き募集しています。長丁場の調査、調査する地域の方々への感謝の気持ちを忘れず調査員の皆さんには楽しく有意義な1日をご提供いただけるよう、事務局スタッフとして努めていきたいと思っています。



## ● 京都市文化財マネージャー育成講座（建造物）が開講

1月24日(土)に「京都市文化財マネージャー育成講座(建造物)」がスタートしました。「文化財」という言葉には、行政の指定・登録を受けている文化財だけではなく、「私たちの身近にある、歴史を語る貴重な地域資産としての様々な建造物」という意味がこめられています。



班ごとにわかれて自己紹介や班長さんを決めました

この講座は、地域に残る優れた歴史的建造物を保存・活用するための専門知識をもつ人材を広く育成することを目的としており、京都市内における歴史的建造物の保存・活用の推進が期待されます。

受講生は40名で、建築方面の仕事に従事されているだけでなく、福祉や教育関連で歴史的建造物に関わりがある・今後活かしたいと考えておられる方、「京町家まちづくり調査」に参加してもっと歴史的建造物の見識を深めたいと思っておられる方など、様々な想いの方が受講されています。第1回目の出席率は、100%。皆さんの熱い想いが感じられ、期待と夢にふくらむイキイキとした表情が印象的でした。

京都市文化財マネージャー育成講座の開講以前は、NPO法人古材文化の会が平成17年から4期にわたり同趣旨の「伝統

建築保存・活用マネージャー養成講座」を、独自に実施してこられました。過去の修了生は104名、マネージャー登録者は97名にものぼります。京都市文化財マネージャー育成講座は、NPO法人古材文化の会の他、京都市とセンターの3者による実行委員会で運営しています。伝統建築保存・活用マネージャー登録者はブラッシュアップ講座を受講することで文化財マネージャーへの登録を申請することができ、既に56名の方が受講しています。

マネージャー育成講座期間は7月中旬までの約半年で、文化財修理の現場見学や登録文化財調査の実習、保存・活用相談の実習など、受講修了後の活動に活かせる体験型のメニューが充実しています。すべての科目を履修すると講座修了が認められ、修了された方は希望に応じて京都市の「京都市文化財マネージャー(建造物)」及びNPO法人古材文化の会の「伝統建築保存・活用マネージャー」へ申請により登録することができます。

### 京都市文化財マネージャー育成講座（建造物）

**お問合せ：**京都市文化財マネージャー育成実行委員会事務局  
(特定非営利活動法人 古材文化の会事務局内)

TEL (075) 532-2103 FAX (075) 551-9811

**主 催：**京都市文化財マネージャー育成実行委員会  
(京都市、特定非営利活動法人 古材文化の会、財団法人 京都市景観・まちづくりセンター)

## ● 作事組全国協議会 設立総会

日本の伝統的な暮らしを支えてきた町家や民家の保全・再生に取り組む全国の29団体が集まり、「作事組全国協議会」が設立されました。伝統的な技術を守り、維持再生の現場にかかわる全国各地の組織が集まり、各地域での成果を共有し、より実効性のあるものとするを目的としています。

2月21日に設立総会と合わせて、公開パネルディスカッションがセンターで開催され、100名近くの参加者のもと、各地域の町家保全・再生技術の現状を共有し、伝統技術の維持・継承のために地域で行うべきこと、全国の連携が必要なことなどについて討論されました。



総会の様子

22日には京都市内で京町家作事組が改修を手掛けた町

家3軒の見学をし、技術継承、法的な整備、町家の快適性などを議論する分科会が行われました。



2日目見学会 京念珠せにや

### ●主催者の方からひと言

前回姫路で行われた設立準備会関係者の皆様のお力をお借りしながら、今回は京都で設立総会を開催できました。今回都合がつかずに参加されなかった団体も多々いらっしゃいましたが、いずれの団体においても情報の共有と連携の必要性が感じられる機会となりました。以後、全国的な連携のもとに活動を継続していく所存です。

## ●学生が地域で学んだこと～2008年度乾ゼミ丸ごとシンポジウムが開催されました！～

センターでは、学生まちづくりアイデアコンペの実施など、京都で学ぶ学生がまちづくりに対する理解を深める機会づくりを進めているほか、地域に関わりながら学ぶ参加型研究室の活動も応援しています。

2月7日、立命館大学産業社会学部乾ゼミでは、3回生の学生が約14ヶ月間地域に通った成果について、地域の方々への報告会を開催され、センターからも参加させていただきました。

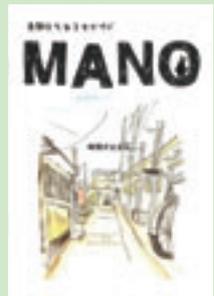


参加者は、関係地域の方々をはじめ、ゼミのOB・OGも含めると150名を超え、会場は熱気に包まれていました。発表では、6地域(出町班・春日班・吉祥院班・梅津班・真野班・本能班)での活

動について、各班の学生から地域のまちづくりの経緯などが説明されるとともに、学生ならではの視点で企画されたイベントやヒアリング調査の結果が紹介されました。中には、地域のまちづくりガイドを作成したチームもあり、学生の意欲と熱意が伝わってきました。

礼儀作法からはじまり、地域課題まで学んだ学生たちは、これらの経験を糧にこれから社会に羽ばたいていきます。参加された地域の皆さんの温かい笑顔が、学生が成長したことの何よりの証拠なのでしょう。詳しくは乾ゼミのブログでも紹介されています。

(<http://inuisemi.cocolog-nifty.com/blog/2009/02/post-9f49.html>)



真野班作成のまちあるきガイド

## 京都まちなかこだわり住宅

住まい手は、京都を楽しむデザイナーさん

京都まちなかこだわり住宅(通称まちこだ)が久しぶりの登場です。まちこだは、一昨年以来のモデルハウスとしての役目を終えた後、昨年、住まい手が現れました。まちこだを購入してくださったのは、東京でデザイナーをされていた北村一雄さん&ヨナさんご夫妻。今回は、京都に移り住んでおよそ半年、まちこだでの暮らしぶりをうかがってきました。

### — まちこだを住まいに選ばれた経緯は? —

一雄さん: 京都で家を探している時に、ホームページで見

つけました。京都に来た際に、「ちょっと見ていこう」とここに寄ったのが最初でした。妻の方が断然気に入って、「ここじゃなきゃいやだ」って。販売主さんにも色々相談に乗ってもらって決めました。



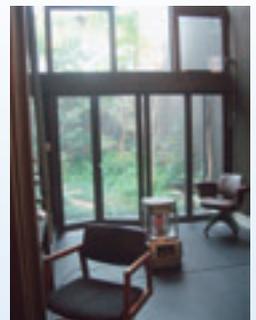
インタビューの様子。右から2番目が一雄さん。3番目がヨナさん。

### — 住むまちを京都とされたのは、何か理由があるのですか? —

一雄さん: 以前住んでいた東京は、ある意味、とても楽しんだけど、仕事で結びついているだけ。仕事のつながりがなくなると人間関係も続かなくなる。あと、坂が多く、車主体の移動になっていて、まちを点で押さえているような生活でした。線じゃないので、歩いている途中の楽しみなどはない。それで、京都で戸建てに住みたいと思うようになりました。

### — 実際、京都に暮らしてみて、どうですか? —

ヨナさん: 京都に来てから、夫は表情が変わりました。ニコニコしてます。まるで京都がセラピストみたい。それに以前より外出もするようになった。近所に古川町商店街がありますが、いろいろおしゃべりしながら買い物できるのがうれしい。



仕事場として使っている1階。緑が育った奥庭と吹抜空間でとても開放的。

一雄さん: 京都の人はよくしゃべる。出かけようとする、「どこ行くの?」と声をかけられて、ついつい30分ほど話したりします。でも、そのおかげで、ご近所の様子などがだんだん分かってきました。

### — きっと同じように北村さんのこともご近所に伝わってるのだと思います。家の方はどうですか? —

ヨナさん: 住んでみて実感したけど、大きなワンルームのような家です。一応部屋は分かれているけど、気配が伝わってくるんです。とても居心地がいいですね。

一雄さん: このまちと家にいると、居心地よくて仕事モードになりにくいのが難点かな。(笑)

どうやら、まちこだにぴったりの人に住んでいただいたようです☆

(森川宏剛)



## 景観・まちづくり大学を受講して (参加者からの声)

平成20年度もセンターでは様々なセミナーを開催してきました。参加者の皆さんから、セミナーに関する様々な要望や感想をいただいております。これらのご意見を参考にしてセミナーの企画をしていこうと思っておりますので、来年度も皆さんのご参加おまちしています。

さて、今回は、京町家再生セミナーのことを壁新聞にしたところ優秀賞をいただいたという西田さん親子のお話と、まちづくり情報発信セミナー受講者からの感想を紹介します。

### ■ 京町家再生セミナー

11月、とてもかわいい封筒に入った手紙がまちセンに届きました。こんなことは滅多にありません。ちょっとわくわくしながら封を開けると・・・8月の京町家再生セミナー「大工の棟梁に町家のことを教えてもらおう！」を受講された小学4年生の西田さん親子からのお手紙でした。「夏休みの宿題でセミナーの受講体験を壁新聞にしたところ、「京都新聞小・中学生新聞コンクール」で優秀賞をいただいた」という報告とセミナーに対するお礼です。



これが壁新聞「京町家再生セミナーかわらばん」

その壁新聞がようやく手元に帰ってきたとのことで、早速拝

見させていただきました。セミナーの内容は、「町家のことを学んだ後町家の造りと同じ、釘を使わず木と木をつなぐ仕口という方法を使って、本棚を制作する」というものでしたが、壁新聞は、その制作過程やセミナーの内容はもちろん、セミナー後に、講師の荒木棟梁にインタビューまで行き、その後も町家について調べ、それらを写真や絵をつかって上手にまとめた超大作でした。

セミナー担当として、これはなによりうれしい出来事でした。今、その壁新聞のコピーを見てはニヤニヤしています。たぶん、荒木棟梁も同じでしょう！

本当に西田有希さん、ありがとうございました。



「京町家のことをもっと知りたい」という西田有希さん

### ■ まちづくり情報発信セミナー

「地域密着型インキュベーション施設の運営から学ぶ、まちのクリエイター育成法」講師：堂野智史氏(扇町インキュベーションプラザ所長)

受講者 西村彩さんからの感想

ブレないポリシーが新しい流れを生み出す。堂野氏の講演を聞いて「ポリシー=方針」を明確化し、貫くことの意義を確認させられた。

メビック扇町は、独立間もないクリエイター・デザイナーの創業を促進し、周辺に立地するクリエイティブ関連産業集積の活性化を目的としている。放送局、広告代理店、新聞社などクリエイティブ分野の産業が豊かな土壌でチャレンジ精神旺盛な企業家を育て、つながりを生み出し、「ひと・まち」の可能性を外に向けて発信している。言葉にするとキレイに聞こえるが、そこには自主性を限りなく追求したビジネスのシビアさがある。

当初メビック扇町では、「インキュベーター=孵化器、保育器」という本来の意味での施設のあり方にするために、2年半かけて面談・成果報告会を繰り返し、入所者の選別を行ったそうだ。ここはチャンスであるが、あくまで自分のチャンスは自分でとること。当事者意識をもって、自らネットワークを構築し、互いに切磋琢磨して成長する覚悟のある人を支援する場ということを明確化し、ビジネ

スインキュベーターの基本ポリシーを貫いたのである。誰もが心の片隅で持っている、現状に対する危機感、焦燥感に火をつけ、ニーズを掘り起こし、出会いを生み出し、つなげ、流れをつくる。主体者はあくまでクリエイター達。「誰のために」「何のために」するのか。時には、がちんこの議論を延々と繰り返し、自分達の目的を再認識させた。

「扇町=クリエイターのまち」という色が年々根付いてきたのは、メビック扇町がビジネスのシビアさと成長を見守る愛情を兼ね備えた、本来の意味での支援に徹し、クリエイター達のモチベーションに火をつけた結果ではないだろうか。

交流と成長を繰り返した結果、主体者はあくまでクリエイター達であり、その情熱の灯火を交わらせる仕組みづくりこそ「支援」なのだ。メビック扇町を軸に、インキュベーション施設という本来のコンセプトを忠実に実現しているからこそ、無から有を生み出し、まちが成長・発展していけるのだろう。今回の講演を通して、大きなアクションを起こす時、壁にぶち当たったときは事の原点に立ち返って確認することの大切さを実感した。

## 景都(Kate)のつぶやき

京都に縁もゆかりもなく、初めは「まちづくり」というものもピンと来ていなかった私です。社会人1年目の職場「まちセン」に仲間入りして、はや2年が経ちますが、今では本当に京都が大好きになってしまいました。もし京都から離れる、なんて考えたとしたら、胸が締め付けられそうです。先の大河ドラマで見た江戸に降嫁した皇女和宮の気持ちってこんな風かな?とまで思ってしまう(ちょっと大げさですが…照)。

なぜこんなにも京都のまちに惹かれるのか。考えてみると、これまでに会った地域の人達の顔や言葉が頭に浮かんできます。「う

ちの地域のいいところは…、ぬくもりがあること!」「自治の伝統が誇り」「うちの朝市は、出ている農産物すべてが自慢!」等々…。京都の方は奥ゆかしいのであまり口には出されませんが、やはり誇りを持っておられます。もちろん、地域の人々が様々な課題と向き合い、活動されてきたからこそでしょう。そんな人達と出会ったことに感動しました。新興住宅地で生まれ育った私は、自分の地域を友人に紹介できるような誇りもないし、そうなるための努力など考えたこともありませんでした。そんな自分は、どこか根なし草のような感覚がするのです。地に足をつけて、日々奮闘されている人々から得た感動と憧憬は、胸に深く刻み込まれ、私も地域とともに向き合いたいと、心を動かすのでした。

(京都市景観・まちづくりセンター事務局 U・M)

# 私と京都



明倫まちづくり委員会委員長

## 井上 成哉

### 「幻の祇園囃子を聴きながら…」

私は「団塊世代」と名付けられた第一世代です。父の勤務の関係上、南禅寺哲学の道に近い社宅が生家です。高校時代まで大文字山や吉田山が遊び場でした。当時、大学紛争の真っ只中、親の大反対を押し切り、大学中退してまで広告写真の道に進みました。当時の京都広告業界は室町の呉服産業、京料理、そして寺社仏閣と言った3つのスポンサーが全盛でした。

結婚して呉服の中心地「室町」にスタ

ジオを構えるとは、思いもよらず、気がつけば既に30年余になります。

私の下の娘が最後の卒業生となり、明倫小学校が生徒減少で統廃合され、芸術センターへと改装されることになりました。また祇園祭山鉦の一つ、「八幡山」のお世話を、義父の病気をきっかけに私が代わって担うことになりました。袴、袴の着装ひとつ知らず、籤取式や籤改めなどの作法を全て教えてもらうのに懸命でした。

祭りをゆっくり楽しむより、宵山時には粽売りの子供たちの世話から、鉦の組み立て、にわか雨の時の緊急措置など、山鉦町の新米町衆にとって、祭りがこれほど疲れるものとは思っても見なかったことでした。

バブル経済が破綻。我が家の真後ろでも大規模マンションが建設され、近隣との問題が起りました。たまたま町内会長をしていました。そこで直接被害当事者として、マンション問題に関わることになりました。京都の中心部での景観を考えさせられるきっかけとなり、またいろいろと学ぶことが多くありました。そのようなことから町内や、地域の方々とも顔見知りにもなり、少しずつ自治連の活動にも関わるようになっていきました。

ある雑誌の依頼で「聖なる空間」と題

し、京都市内に残されたお地蔵さんが、祀られている風景を撮影する機会を得ました。路地から路地へ、また自宅の一部を改造して祀られている地蔵の空間。京都の人々にとって、ご町内のお地蔵さんを祀る心の大切さ…それを「聖なる空間」と題して撮影を続けてきました。そこには「門掃き」する心と同じく、「ご町内に住まわしてもらっている」といった、昔から京都の人々の暮らしが営まれてきた歴史が感じられるものでした。

一昨 years 景観条例も施行され、「記憶としての町並み景観」もようやく守られようとしています。今まで仕事などで、ヨーロッパの市街地を間近で見ると、京都のど真ん中に居住している者として、常々恥ずかしく思っていました。自分自身のアイデンティティとしても、自分の居住空間や働いている空間は、歴史と共に自らを形成する大切なものと申せましょう。

祇園祭り、山鉦町に暮らしてはや30年。「時の記憶」と申すのでしょうか、7月17日祇園祭巡行も終わった夜、早朝からの疲れに早めの寝室で聞こえるはずの無いお囃子の音が、空耳のように流れてきます。心地よい太鼓と笛の音をうつつらうつつ聞きながら、いつしか夢の世界へと引き込まれていきます。

## 平成20年度賛助会員 敬称略 (五十音順)

H21年2月末現在

### 【個人】

青木 義照	大関 法子	北村 信幸	佐藤 友一	瀧本 章	中山 雅永	船橋 律夫	山崎 一樹
足立 勇一	岡崎 篤行	木村 忠紀	里見 晋	武井 政石	西居 智司	古川 幸隆	山田 昌次
姉崎 正史	岡野 哲也	木村 裕	真田 松寿	多田 吉宏	西澤 亨	平家 直美	山本 一博
天利 義一	岡本 晋	木村 眞紀子	柴崎 孝之	田中 照人	西嶋 淳	星川 茂一	山本 耕治
荒金 博美	岡本 秀巳	桐澤 孝男	島崎 耕一	田中 行夫	西島 篤行	星野 民嗣	山本 茂
池原 匡新	岡山 尚義	桑原 尚史	島田 和明	田辺 真人	西嶋 直和	本田 徹	湯浅 博央
石川 貴洋	奥 美里	小嶋 寛信	清水 博之	多兒 貞子	西村 健	前田 磯	横山 経治
石崎 了	奥山 脩二	小杉 貴子	城本 邦彦	谷口 一朗	藪黒 健夫	正木 敦士	吉岡 伸晃
石原 一彦	押谷 昌成	小中 勝	新喜 富雄	寺田 恵子	長谷川賢一	松井 浩一	吉田真由美
石本 幸良	影近 晴治	小林 正純	杉浦 伸一	寺田 敏紀	旗 哲也	松田 彰	善積 秀次
石森 雅裕	笠岡 英次	齊藤 修一	寿崎かすみ	寺本 健三	早崎 真魚	松村 光洋	淀野 実
糸井 恒夫	桂 豊	佐伯 康介	鈴木 知史	戸所 泰子	林 裕志	松村 義光	鷲頭 雅浩
伊藤 宏明	亀井 孝郎	酒井 英一	炭崎 勉	内藤 郁子	林 裕之	松本 正	
稲石 勝之	川上 輝夫	坂根 朋子	関岡 孝繕	中井 徹	林 道弘	丸本 英俊	
稲波 良幸	川口 高穂	坂根 正樹	園 孝裕	中川 慶子	平竹 洋子	水田 雅博	
犬伏 真	川口 東嶺	坂本 登	醍醐 孝典	中沢 洋雄	吹上 裕久	溝上 省二	その他4名の 皆様
今富 僚二	河田 久章	坂本 正寿	高川 祐子	中島 吾郎	福島 貞道	宮本日佐美	
上原 智子	上林 研二	相良 昌世	高木 勝英	中島 弘益	福島 正俊	村田 清	
江籠 義貞	上林 隆	佐竹 和男	高木 伸人	中谷 弘	福原 堂礎	森 広士	
江田 頼宣	神原 浩之	佐藤 七重	高橋 修	中司 さゆり	藤井 茂	森岡 早苗	
大島 仁	北川 洋一	佐藤 洋	高谷 基彦	中村 忠夫	藤本 春治	柳原 博實	

### 【団体】

NPO 法人京滋マンション管理対策協議会  
 NPO 法人マンションセンター京都  
 大阪ガス株式会社近畿圏部  
 オムロン株式会社  
 株式会社ジェイアール西日本伊勢丹  
 株式会社ゼロ・コーポレーション  
 株式会社地域計画建築研究所  
 株式会社フラットエージェンシー

京セラ株式会社  
 京都駅ビル開発会社  
 財団法人手織技術振興財団公益事業部織成館  
 佐川急便株式会社  
 社団法人京都府建築設計事務所協会  
 修徳自治連合会  
 都市居住推進研究会  
 平安建材株式会社

有限責任中間法人相続総合相談センターきょうと  
 有隣自治連合会  
 ローム株式会社



# センターからのお知らせ

## 応援します！「市民が主役のまちづくり」

センターでは、地域の住民の皆さんが主体的に進められるまちづくり活動を応援しています。

まちづくり活動の相談に応じています！

地域での自主的なまちづくりについて、窓口や電話でアドバイスや情報提供等を行っています。

活動に役立つセミナーを開催します！

京都のまちづくりに関心のある方ならどなたでも受講していただけるセミナーです。お住まいのまちの将来像を考えるうえで欠かせない、まちづくりの歴史等、今後のまちづくり活動に活かせる内容になっています。

活動費の一部を助成します！

地域でまちづくりを継続的・計画的に進める団体に対し、地域のルールや将来像を検討する勉強会での資料作成や、その成果を示したパンフレット作成等に関する費用の一部を助成しています。

地域へ出向きまちづくりのアドバイスやサポートをします！

お住まいの地域に出向いてまちづくりのアドバイスや情報提供をはじめ、まちづくり活動を充実させるためのサポートをしています。

活動・交流スペースをご活用ください！

印刷機やパソコンを揃え、広報紙やチラシ作成に活用できる「まちづくり工房」、少人数のミーティングに自由に使える「まちづくりサロン」など、ぜひご利用ください。

皆さんからのご相談、おまちしています。



景都 (Kate) マチ右衛門

## 平成21年度 賛助会員の募集

京都のまちづくりに貢献したい！センターの活動を応援したい！そんなあなたの熱意をお待ちしています。

### 特典

- ・ニュースレター(年4回・季刊)の送付
- ・シンポジウム、セミナー等の案内送付
- ・冊子等センター発行物の割引
- ・ニュースレターでの活動紹介 等

### 年会費

- 個人 1口：5千円
- 団体 1口：5万円



## センター活動拠点のご案内

### 京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1 (河原町五条下る東側)  
 「ひと・まち交流館 京都」地下1階  
 TEL 075-354-8701  
 FAX 075-354-8704  
 e-mail : machi.info@hitomachi-kyoto.jp  
 HP : <http://machi.hitomachi-kyoto.jp>

- 開館日 (相談の受付等)  
9:00 ~ 21:30 (月曜日~土曜日)  
9:00 ~ 17:00 (日曜日・祝日)
- 休館日  
毎月第3火曜日 (国民の祝日に当たるときは翌日)  
年末年始 (12月29日~1月4日)  
なお、センターへのお越しの際は公共交通機関をご利用ください。



### 京都市景観・まちづくりセンターホームページ

<http://machi.hitomachi-kyoto.jp>



京町家まちづくりファンドについて最新情報をお届けします。

京町家まちづくり調査を平成22年3月まで行っています。調査の概要や調査員の募集など詳しい内容はこちらから。

センターで開催している各種セミナーの情報がいっぱい。

地域での良好なコミュニティづくりについて参考になる事例を集めました。

今月は何があるかな？

などなど、まちづくりや京町家の情報がつまります！